

新道路技術会議の経緯と概要

1. 会議の経緯

国土交通省道路局では、「学」の知恵、「産」の技術を幅広い範囲で融合することにより、道路政策の質の向上に資するため、H16より「新道路技術会議」を設置。

1) 会議の沿革

- ・平成16年10月に第1回会議開催
- ・平成17年11月の第3回会議より、2分科会制（ソフト、ハード）導入
- ・平成27年度までに28回開催（各年度2回を基本）し、63件の研究課題を採択（40件終了）

2) 応募・採択の経緯

年度	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
応募数(件)	59	52	42	50	39	50	—	54	46	50	30	41
採択数(件)	8	3	3	5	6	4	—	10	5	6	4	9
実施数[新規+継続](件)	8	11	14	11	14	14	9	14	16	20	14	19
予算額(百万円)	131	176	195	150	150	148	107	193	206	180	188	373

※H20よりFS研究を採択。なお、H21・H24・H26採択のFS研究（3件）は単年度で打ち切り。

2. 技術研究開発のテーマ設定・採択・評価の流れ

「10の政策領域」に「3つの公募タイプ」を組み合わせ、幅広い技術研究開発を対象として公募を実施（研究期間は1～3年間以内）。また、H22よりタイプIV「特定課題対応型」を設定。なお、公募タイプI～IIIにおいて、研究の本格採択にあたり事前に実行可能性や具体的方途等について検討・分析を行う「実行可能性調査（FS）」を設定（研究期間は1年間とし、1年後に研究課題の本格採択の是非を審査）。

1) 10の政策領域

- (1)新たな行政システムの創造
- (2)道路ネットワークの形成と有効活用
- (3)新たな情報サービスと利用者満足度向上
- (4)コスト構造改革
- (5)美しい景観と快適で質の高い道空間の創出
- (6)交通事故対策
- (7)防災・災害復旧対策
- (8)道路資産の保全
- (9)沿道環境、生活環境
- (10)自然環境、地球環境

2) 3つの公募タイプ

公募タイプ	タイプI 政策実現型	タイプII 技術ブレイクスルー型	タイプIII 新政策領域創造型
概要	現在の道路行政の重点課題の解決に資する研究	技術的課題の画期的な解決を目指す研究	政策横断的な視点から道路行政の新たな政策領域を提案する研究
研究費規模 (年間限度額)	各公募タイプ（I～III）とも100万円程度から最大5,000万円 (研究経費の適切さは重要な審査対象となるため、研究内容に応じた適正な予算額を計上すること)		
公募タイプ	革新的研究調査（FS）		
概要	各公募タイプ（I～III）において、研究者自ら又は会議の判断に基づき、研究の本格採択にあたり事前に実行可能性や具体的方途等について検討・分析を行う研究 (研究費規模：100-1,000万円/年) ※単年度で実施し、1年後に研究課題の本格採択の是非を審査		

タイプIV 特定課題対応型	
公募タイプ	H22 「無電柱化推進」
	H26 「橋梁点検を低コストで効率的に支援する技術に関する研究開発」 「首都圏の環状道路の効率的な運用に関する研究」
	H27 「技術者による橋梁の近接目視・打音・触診点検・診断において、効率化・精度向上を支援する機器群パッケージの開発」
	H28 「ETC2.0を含む多様なビッグデータを活用した、①地域戦略における交通需要・空間マネジメント手法の開発、②平時及び災害時のデータプラットフォームの開発、③ストック効果と信頼性評価手法の開発」
概要	道路行政における社会的なニーズ等を踏まえた特定の政策課題に対応した研究 (研究費規模及び実施期間は課題に応じて都度設定（H27は5,000万円程度・2年間以内）)

3) 審査の流れ

- ①一次審査（政策領域毎に国交省担当行政官と研究官が実施し、ヒアリング審査付託案件を審査）
- ②ヒアリング審査（ソフト/ハード分科会別実施し、二次審査付託案件を審議）
- ③二次審査（新道路技術会議を開催し、②の結果を踏まえ採択研究を決定）

4) 研究の評価

複数年度にまたがる研究は、研究の見通しや進捗等について、毎年度、中間評価を実施（FS評価はFS研究を実施している年度のみ実施）。また、研究終了後に事後評価を実施し、研究成果等を評価。優れた技術研究開発の成果（事後評価結果「A」の研究課題）に対しては、「優秀技術研究開発賞」として表彰し、公表。